

三鷹市立大沢台小学校 令和5年度【理科】授業改善推進プラン

| | 前年度授業改善推進プランの検証 | 学習状況の現状と課題 | 指導方法の課題と授業改善策 |
|------|--|--|--|
| 第3学年 | <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察では、観点を明確にし、活動の時間に見通しをもたせたことで、ねらいに沿った視点の観察をする児童が増えた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題を自ら発見したり、実験結果から導き出される定義を自分の言葉で表現するのが難しい。 考えたり調べたりしたことを記述することに困難を感じる児童がいる。 | <p>〈学習状況の現状と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験や観察は意欲的に取り組み、自分の考えを発表する児童が多い。 植物の観察では、前回の観察時と比較をして成長の様子をまとめられる児童が増えてきている。 ノートに自分の予想や考察を書くことが難しい児童がいる。 生き物の観察では、昆虫に対して苦手意識があり、世話や観察を続けることができない児童がいる。 | <p>〈指導方法の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察の視点が明確にならないまま記録する児童がいた。 学習した内容を基に、結論やまとめを児童から引き出すことができていなかった。 課題や問題に対して、児童自らが解決しようとする意欲を十分にもたせられなかった。 <p>〈授業改善策〉</p> <p>◎観察では、視点を分かりやすく板書する。それをノートに書くことで、より多くの児童に明確に意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習問題や予想、結論の書き方といったノートの取り方をどの単元も統一することで、見通しをもって学習に取り組ませる。 課題や問題をそのままにせず、自分で解決できるように友達と相談したり調べたりする時間を設ける。 |
| 第4学年 | <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験、観察前に予想とその理由を考え、互いに交流させたことで、問題意識を高めることができた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 考察の記述をさせるように時間をとったり、キーワードを提示したりしたが、自分の言葉で表現することへの苦手意識をもつ児童がいる。 | <p>〈学習状況の現状と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 予想を立てながら課題解決する力が身に付いてきた。 観察や実験を通し、結果から考えたことをまとめたり、新たな疑問を見出したりすることが苦手な児童がいる。 実験や観察の結果から得られた知識が定着していない児童がいる。 | <p>〈指導方法の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察や実験活動を知識として身に付けるための手立てが不十分であった。 考察を自分の言葉でまとめる方法を丁寧に指導する必要があった。 <p>〈授業改善策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験や観察の方法を事前に丁寧に確認し、正しい実験の仕方、器具の扱い方を身に付けるようにする。 実験や観察の後に動画教材を活用し、理解を深められるようにする。 ◎考察を記述する際に、キーワードとなる言葉を用いて文章をつくることを意識させたり、言葉かけをしたりして、自分の言葉で表現することに慣れさせる。 |
| 第5学年 | <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 予想を立てる際、どうしてそのように考えたのか理由を書かせるようにすることで、学習課題を身近なものや既習事項と結び付けて考えられる児童が増えた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題を解決するまでの筋道を考える児童が少ない。 条件制御の視点をもたず、実験方法が理解できていない児童がいる。 | <p>〈学習状況の現状と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験の際には、ICT機器等を活用しながら事象を観察し、記録することができる。しかし、実験したことが知識として身に付いていない児童がいる。 実験の過程（予想・実験・結果）を反映させながら、考察やまとめを考える力が全体的に十分ではない。 学んだことを身近な生活に置き換えて考えることができていない児童がいる。 | <p>〈指導方法の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題が身近なものとして捉えられていない。 予想や仮説を基に、問題解決させることができていなかった。 学んだことを日常生活の自然事象に結び付けて考えさせる学習を十分にしていなかった。 <p>〈授業改善策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題を身近なものや既習事項と結び付けて考えられるように、導入を工夫し、児童が考えたいと思えるようにする。 ◎実験などの際には、課題、予想、実験方法、結果、考察と項目立てをし、それぞれどのようなことを書けばよいのか視点を明確にする。必要があればキーワードを提示するなど工夫をして言語環境を整える。 学んだ内容が日常生活のどのような場面に活用されているのかを考えさせたり、教師側から提示したりする機会を設ける。 |
| 第6学年 | <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験方法をしっかり確認したことで、結果の予想を考えられたり、意欲的に実験や考察に取り組んだりする児童が増えた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 考察を書くようにはなったが、結果のみを書く児童も少なくなかった。生活と結び付けて書けるよう、多様な書き方の提示が有効だと感じた。 | <p>〈学習状況の現状と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察・実験の用具の扱い方を多くの児童が理解したが、名称について身に付いていない児童がいる。 条件制御の視点をもって、実験方法を考えることができる児童が増えた。 実験結果をもとに、意欲的に考察し交流しようとする児童がいる一方で、実験がうまくいったことで満足している児童がいる。 | <p>〈指導方法の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 理科的用語が身近なものになっていない。 全員が実験方法を理解せず、実験が行われている。 実験結果を考察する態度が身に付いていない児童がいる。 <p>〈授業改善策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察・実験の用具、理科用語が身に付くよう、授業の中で繰り返し確認する。 条件制御を理解して実験に取り組み、そこで出た結果を考察する時間を十分にとる。 実験方法を教え合い、確認してから実験を行うようにする。 ◎考察を記述する際に、キーワードとなる言葉を用いて文章をつくることを意識させ、自分の言葉で表現することに慣れさせる。 |